

1 自己評価及び外部評価結果

作成日：平成23年8月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078700194		
法人名	社会福祉法人 竹里会		
事業所名	グループホーム あげ道	ユニット名	
所在地	福岡県みやま市瀬高町大江2289-1		
自己評価作成日	平成23年6月15日	評価結果市町村受理日	平成23年8月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F
訪問調査日	平成23年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念でも掲げていますが、本人の生活習慣を大切にしています。入居してから以前の習慣が出来なくなるのではなく、入居してから継続出来るような関わりを重視しています。家族や知人から、本人の習慣についての情報を集めたり、本人からも日々の会話や行動から見つけ出し、それらを続けられるように支援しています。日中も大まかな時間の流れはありますが、時間で区切らず本人のスタイルで生活が継続出来るようにしています。外出にも力を入れており、散歩やちょっとしたドライブなどはいつでも行けます。遠足の行事もよく行っております。本人と家族の関係性も大切にしており、毎年恒例の忘年会や、毎年の外出行事など本人と家族との関係が希薄にならないように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日本の風景の中に当たり前であり、昔の方が歩き慣れた“あげ道”。まさに、それがホーム名となっている。ホームのパンフレットには『あげ道やけん ぼちぼちでよか あげ道やけん そのままでよか』と、方言で書かれた言葉に、ご利用者を思う“深い愛情”を感じることができた。ホーム周辺は“あげ道”が多く、日常の中で職員とご利用の方が散歩をされている。昔から足の裏に感じてきた“あげ道”を踏みしめる感覚は、思い出や五感を蘇らせるために最適な方法とも考えられる。ホームで暮らす方には、男性のご利用者も多く、畑でジャガイモを作ったり、小学生にプレゼントする“竹トンボ”作りをされている。男性管理者との囲碁の時間も日常で、娘さんが毎週、囲碁の本を買ってきて下さる方もおられる。女性の方々も、梅干し作りや買い物、洗濯たみと、それぞれ培ってきたお力を日々の中で発揮して下さっている。ご本人の気持ちが自然と動くような声かけができるよう努めている最中であり、明るい職員の方も多く、ミーティングでは“とことん”意見交換が続けられている。24年春、ホームに遊びにきてくれている小学生の卒業式がある。成長を見守ってきた子ども達でもあり、卒業式の参列も楽しみの一つとなっている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あぜ道独自の理念を作り、ミーティングで唱和する事で共有を図っている。実践においてケアに迷った時には、理念に立ち返るよう努めている	理念の1つ目には、“ご利用者個人の生活習慣を大切にします”と掲げている。ご利用者の生活習慣は必ず確認しており、心理面の配慮もしている。嗜好品（飲酒や喫煙）に関しても、主治医に確認し、夕食の時に週に2～3回、焼酎を飲まれる方もおられる。また地域交流も行き、子供たちも遊びに来てくれるようになってきた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事（河川浄化、祭り事）に積極的に参加している。買い物も近隣の店へ出掛けしている。近く子どもたちも日常的に遊びに来てくれるようになった。	近隣を散歩時にも、地域の方々に挨拶をしている。敬老祭の時には子供会に参加の依頼を行い、ボランティアの方には踊りの披露もして頂けた。小学校の学習発表会や餅つき大会、卒業式等にもご利用者と参加している。毎月発行している広報紙を、近隣の商店・小学校・整骨院などに持参する取り組みも行われた。	地域の方々に、認知症の理解やグループホームがどのような施設なのか、発信を続けていく予定である。10月には介護教室を予定しており、幼稚園との交流会も行う予定である。小学生の方々も含めて、より多く遊びに来て頂きたいと考えられている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人レベルではあるが、介護教室や出前サロン（認知症予防や対応）を開催し地域の方へ発信している。あぜ道では、実施出来ていない状況であるが、10月頃に介護教室を開催して行きたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、協力医・地域代表・家族代表・消防団員など9名が出席している。利用者の状況・常時報告は必ず行い、それ以外では、感染予防対策についての話しや、行事参加への声掛けをしている。質疑応答により意見交換を行い、質の向上へ目指している。	この1年、新たに消防団員に声かけし、会議に参加頂く事ができた。会議に参加下さる地域の方々、ご家族、協力医からも、それぞれの立場からのご意見を頂けており、日々の業務に反映させる事ができている。ご利用者の状況やケア等を知って頂くため、バーベキュー大会への呼びかけも行われた。	【外部評価1と共通】 地域の方々に、認知症の理解やグループホームがどのような施設なのか、発信を続けていく予定である。今後も引き続き、会議のあり方の検討や、参加者にご利用者が集える場も含めて、検討をしていく予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月かわら版（広報紙）を持って出掛け、連絡や情報交換へ努めている。また、行事に参加（敬老祭やバーベキュー大会）してもらう事で、実情やご利用者への対応を見て頂いている。定期的に電子メールで情報が届いたりもし、協力関係を築いている	随時、市役所から、メールや電話で情報を頂けており、東北地方太平洋沖地震による介護職員の派遣依頼があった時にも、派遣職員登録を行った。ホーム側からも、終末期の医療連携のあり方など、不明時には市の担当の方に質問をしている。ご担当の方はきちんと調べて下さり、分かりやすく説明して頂けた。	【外部評価1と共通】 地域の方々への発信方法も含めて、今後、市役所や同市の他のグループホームの方々と一緒に集う機会を作り、グループホームの現状や課題等の意見交換ができる場を作っていければと考えている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない。との法人の考えのもと委員会が中心となり定期的な勉強会を行っている。身体拘束廃止マニュアルを作成し拘束ないケアに取り組んでいる。	ご本人の尊厳を守るためにも、自由な行動をして頂いている。点滴時に針を抜かれる方には職員が付き添いの時間を作り、ご家族の付き添いの協力も依頼した。居室内での転倒予防のため、転倒時衝撃吸収マットの設置も行った。時に、指示口調になる時もあり、気になる言動がある場合は注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年勉強会を行い、知識の習得にあたっている。職員の利用者に対する態度や言葉かけに他職員も意識しお互いに声を掛け合う事で防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年法人内で勉強会を行っている。パンフレットを設置し情報を提供している。	管理者が、外部研修で成年後見制度の研修を受け、職員への伝達研修が行われた。現在、制度の利用者はおられないが、管理者が、入居時にご家族等に制度の説明を行い、個々の必要性の検討も行われている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書などにより説明を行い、その際必ず質問等がないか尋ねている。不明な点や不安な所はないか、との声かけを必ず行うようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートの実施や意見・要望ボックスの設置を行っている。苦情や要望が聞かれた際は、都度検討する機会を設け運営に反映させ、その改善回答は掲示している。	毎月、ご家族に広報誌を郵送し、日頃の状況を報告している。年に1回、無記名アンケートを実施すると共に、ご家族の面会時にも意見を伺っている。トレオの意見を頂き、排泄後の換気と掃除の徹底に努めたり、ご家族から「介護に関わる事で心が晴れる」との事で、介護に携われる場も作っていく予定にしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティング時に意見交換の機会を設けている。また、個人面談において要望を事前に受け付け面談時に話し合いが持てるようにしている。	ミーティング時等に職員同士の意見交換をしているが、“ミーティング時間等”への意見が出された。会議開始時間を早めたり、連絡事項は素早く済ませるようにし、ケアや支援内容への時間は十分に取れるようにした。職員のチームワークも良く、さりげなく、お互いを支え合える関係が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の実施やその後に伴う面談において勤務状況を把握し、また給料水準を理解できるよう努めている。面談時には、自ら目標設定を行う事で、向上心を持ち働けるように努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	面接において、当人のやる気を重視し採用にあたっている。性格テストを導入しており、採用の際の参考にしてしている。	採用時、性格テストを実施しているが、その方の性格に応じた業務を担って頂いている。年に2回(春と秋)、管理者等との面談を行い、日頃の悩みや業務への希望を話して頂いている。それぞれの職員の特技もあり、写真や習字、レクの担当等、お力を発揮して頂いている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会や研修に参加し、ミーティング等にて職員へ周知している。また、法人の理念にもうたっており、ミーティングの際に唱和する事で人権尊重を啓発するよう取り組んでいる。	ミーティングの時は、法人の理念『1・私たちはご利用者の人権および人生を大切に、その生命を尊びます』と、ホーム独自の理念を唱和している。管理者は、ホームの役割とは？ということも伝え、尊厳、人権尊重に関する話を、ミーティングでも、とことん話し合う機会を作っている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員レベルに応じた外部研修に参加してもらい、報告の場を設ける事でフィードバックしている。人事考課にて話し合いを行う事で、目標設定や段階に応じたの育成に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、協会主催の勉強会や懇親会への参加により交流を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。		
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面接にしっかりと時間をとり、本人の思いや不安などを伺い、利用前より関係づくりをしている。伺った情報を他職員と共有し、安心して利用して頂けるような対応を検討している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の抱えている要望や不安を聞くようなカンファレンスを行っている。ホーム内の見学や必要な情報は提供している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族のニーズを確認し、他のサービスが適切であると考えられる場合、本人、家族の意見を取り入れながら他のサービスの紹介や説明を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者、一緒に作業を行う事で、互いが一方の関係性にならないように努めている。日々の暮らしの中でアドバイスをもらったり、お互いの意見を言い合える関係作りに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報交換をこまめに取りながら、本人を共に支えて行けるように努めている。また、本人と家族の関係が希薄なものにならないよう、本人・家族が主体である事を念頭においた関係作りに努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人から行きつけの店や病院、関わりのあった人についての情報収集に努めている。自宅・なじみの美容院に行きつけよう支援している。面会も自由に行っている。	ご家族や知り合いの面会時には、お茶を出す時等にさりげなく情報を得ようとしている。職員も付き添って、自宅までの外出、行きつけの散髪屋や美容室、ホームセンターへの買い物や知り合いのいる用品店への買い物等も続けている。仲の良いご利用者同士での外食も行われている。	【外部評価12・21も共通】 今後も引き続き、意志疎通が困難な方の馴染みの方や場所の把握を続けていくと共に、センター方式の“私の支援マップシート”を作成し、馴染みの場所などをより把握できるようにしたいと考えられている。
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士と一緒に居られる場面の自然な流れの中で作り、会話や互いの関係性が深まり、支え合えるような関係作りに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても面会に行ったり、他事業所へも様子を見に行ったりと関係の継続を図っている。終了後も相談や情報提供を行う旨を説明している。		
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を聞き、職員間でミーティングしたり、家族の協力を得ながら、意向に応えられるよう取り組んでいる。日常の会話内や行動・表情などから希望の把握を行っている。	現在、アセスメントシートの書式のあり方を、ケアプラン委員会(法人全体)で検討している。“ご本人の意向”と“できそうなこと”を大切にしながら、ご家族からの要望も伺い、介護計画に反映できるように努めている。	【外部評価11・21も共通】 今後も引き続き、意志疎通が困難な方の思いを把握していくことも大切に考え、馴染みの方や場所の把握を続けていくと共に、センター方式の“私の支援マップシート”を作成していきたいと考えられている。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族より情報を得ている。また、家族と連携を取る事により、新しい情報を付け加えるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共に過ごし、活動する中で、一人ひとりの生活リズムを把握し、心身の状態の変化に気付き、有する能力の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやケア会議により、意見やアイデアを出し合い現状に即した計画を作成するように努めている。	自立支援の視点を大切に、“できる部分とできそうな部分”を丁寧に情報を得ている。計画の見直しは担当者中心で行い、原案は計画作成担当者が作り、職員全員で話し合っている。「小学校との交流で持参する竹トンボや、水鉄砲作り」「散歩や買い物へ出かける」等も計画に盛り込まれており、医師からもアドバイスを頂いている。	現在、アセスメントシートの変更中であり、センター方式の活用も考えられている。“ご本人のプラン”という視点で、計画の中の表現を見つめると共に、行動障害の背景を知るためにも、主治医からのアドバイスを更に頂くなど、引き続き、医療連携を行っていく予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル・ケアチェック、支援経過記録に記載し業務前に目を通す事で情報の周知・共有を図っている。毎月行うモニタリングによりプラン見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診にご家族と一緒に付き添ったり、美容院への付き添い、買い物など実施している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の図書館や商店へ出掛けている。近所の魚屋より来所してもらい、魚を選んだり会話する事で楽しんで頂けるよう支援している。防災訓練では消防署より水消火器を借り訓練している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居されてから、かかりつけ医を変える事なく、本人、家族の希望で病院で受診をしてもらっている。その際、ホームでの様子を情報として提供し、主治医からも診療情報を提供してくれる医師もあり、本人が適切な医療を受けられるよう支援している。	日頃から健康管理をしっかり行っており、協力医や同法人の看護師には、適宜、情報提供を行い、指示を頂いている。受診時には情報提供書を作成し、主治医にホームでの様子を伝えている。受診結果は、ご家族に電話にて報告しており、ご家族同行での受診結果は、戻られた時に必ず伺うようにしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護職はいないが、隣接している協力医療機関へ連絡・相談し、指示や助言をもらっている。同法人の看護職に相談を仰ぐ事もある		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を作成し、ホームでの状況や状態を報告している。日頃より受診時には、文書にて情報提供を行い関係を作っている。また、こまめに面会に行く事で安心してもらう、看護師と情報交換している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームで出来る範囲の事を説明し理解してもらっている。本人・家族や主治医と話し合いを持ちながら、重度化や終末期に向けて取り組んでいる。希望に沿えるよう繰り返し話し合いを行っている。	入居時に、重度化や終末期の意向を確認している。今までホームで看取りケアを行った方をおられないが、入院(入所)ぎりぎりまで、最善の対応をさせて頂いた。ご本人にとっての適切な場所(病院、特養、療養型、グループホームなど)の見極めも行っている。この1年の間でも、ご本人専用の緊急対応マニュアルを作り、連絡体制の確認等を全職員への周知徹底が行われた。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの設置。法人内での救急法について法人内での勉強会へ参加している。また、消防署での普通救命講習にも参加している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い、避難経路・避難場所の確認を行っている。災害時には隣接している老健施設からの協力体制もとっている。	消防署の方は、年に1回、施設内見学に来て下さっている。22年(6月と11月)、消防署より水消火器を借りて、ご利用者、職員、ご家族と一緒に訓練を行った。23年5月には、防災設備業者の方も一緒に訓練を実施した。災害に備えた備品として、水や食料などを2日分準備している。	最近、夜間想定での訓練が行えておらず、水害時の訓練も行う必要があると考えられている。避難場所を含めて、マニュアルも作成していく予定である。
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	竹理会全職員が持っている”こころのかぎ”に倫理綱領、職員の心得として、尊重とプライバシーに関する項目を上げている。職員はこの事を常に念頭に置き対応し、個人記録の取り扱いにも注意している。	前管理者の思いを引きつぎ、ご利用者への尊厳を大切にされている。その日のご利用者の心理にも配慮し、声をかける口調にも注意をしている。疑問形での声かけを行い意志を確認し、居室に入る時にはノックを行うなど、日々の生活の中でお互いに配慮を続けている。時に指示口調になる時は、お互いに注意している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常での自己決定を大切にするためにも、声かけには疑問形で投げかけるように努め、職員側の思いや都合にならないようにしている。行事等も、日々の会話の中から作りだしたりと、本人の希望を引き出せるように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはほとんど決めず、自分のペースで生活して頂いている。買い物や散歩・入浴など自由に自分のペースを保ちながら暮らせるよう支援している。突発的な要望についても、本人の気持ちを大切に出来るよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容の声かけや、入浴や着替えの際に本人と一緒に準備をおこなうなど、本人に合った身だしなみができるよう努めている。外出時等は化粧などおしゃれを楽しめるようにしている。行きつけの美容室へも行って頂けるよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から一緒に行い、準備の段階から男女問わず本人が活躍できる場を持ってもらい、より一層食事が楽しい時間となるよう努めている。月2回一緒にメニューを考える月を持ち食事への関心を持ってもらえるように工夫している。	職員も一緒に食事をされており、食事会の会話を大切にされている。“できそうなこと”を、日々の生活の中で取り入れており、ケーキ作りや手打ちうどん作り等も一緒に楽しまれている。時々、テーブルに運ぶのを忘れてしまうが、調味料を数種類準備し、好みで選んで頂くなど、食事を楽しめるアイデアの話し合いは常に続けられている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を記録し、栄養バランスが保てるようにしている。食事量が少ない方には、好まれる物をプラス1品提供したり、栄養ゼリーを提供している。好みに応じた食べ物を提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、就前に歯磨きの声かけを行っている。嫌がられる方へは、緑茶の提供や時間を置いて再度声掛けしたり、うがいだけでも行って頂くようにしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の兆しが見えたら、トイレに誘っている。把握しづらい方はノートに記載し、サイクルの把握に努めている。また、声かけやはり紙により、排泄行為を理解してもらい、自立を促している。	部屋にトイレがあり、排泄が自立されている方もおられ、布の下着利用(パッド)の方も多い。安易におむつの利用は行っておらず、できるだけトイレでの排泄が行えるよう、声かけを行っている。場所がわからない場合は、ご本人の素振りを見ながら、さりげなく声かけを行っている。ドアをきちんと閉める等、羞恥心への配慮も行っている。	トイレでの排泄行為を思い出して頂けるように時間をかけて“待ち”のケアを続けている。ご本人の気持ちがその気になられるような誘導が行えるよう、介護技術の向上と合わせ、24時間シート等の活用も検討されている。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、便秘によいと言われる飲食物(牛乳やアロエや繊維物など)を提供している。また、適度な運動や自然排便が出来るよう支援している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂は毎日沸かしている。希望があれば毎日入浴してもらえるようにしている。本人の希望される時間帯や長さに対応している。入浴剤も数種類準備する事で入浴を楽しんで頂いている。また、季節ごとのゆずやしょうぶ湯なども行っている。	入浴の楽しみとして、ご利用者も一緒に買い物に行き、入浴剤を選んで頂いたり、入浴時間を20時頃まで伸ばし、夕食後でも入浴できるようにした。拒否がある時にも無理な声かけはせず、時間を置いて再度声をかけるようにしている。できる限り同性介助を行い、ケアについて職員間でのミーティングも行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動時間のバランスを考えている。昼寝の習慣がある方には、気軽に昼寝をしてもらえるよう支援している。入眠時間も本人の希望に合わせて対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は個人のファイルに記載し把握している。追加や変更があった際には、介護支援経過や送りノートに記入し全員が情報の漏れのないようにしている。3重チェックと飲み込み確認を行い、配薬ミスなどないようにしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の家事活動(料理・洗濯物たみ・掃除など)それぞれに合った役割が出来るよう自然なアプローチをしている。花壇や畑作りなども好きな方にしてもらう事で充実して過ごして頂けるよう支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買い物やドライブ、散歩など要望に沿っている。また、季節を楽しめるよう花の見物などへも行っている。家族に協力を得て、自宅への外出や、家族と一緒に掛ける行事も取り入れている。	ホームの名前の通り、“あぜ道”の散歩も日常的に行われており、季節の移ろいを日々感じる事ができている。熊本県荒尾市のバラ園見学、八女市のぼんぼり祭り(雛人形)見学、高田町でバーベキュー大会、筑後市で外食会(レストラン)など、各地域の行事や季節に応じた花見、ドライブも楽しまれている。	【外部評価11・12共通】以前、好きだった馴染みの場所に興味を示さなくなった方もおられ、意思疎通が難しい方の希望の把握が課題となっている。ご家族への確認も続けながら、今後も引き続き、季節感を感じて頂き、少しでも外出支援ができるよう努めていく予定にしている。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際、値段を見比べたり、隣の施設の喫茶に出掛けて、自らお金を使えるよう支援している。ご利用者によっては、自分で管理してある方もいる。本人の希望と能力に応じて金銭管理をして頂く事で、精神の安定にもつながっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時は、電話を取り次ぐようにしている。家族・友人への年賀状、暑中見舞いなどのやり取りもしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じるような花や、手芸品をかざり、季節感を出している。心地よく過ごして頂けるよう、換気とまぶし過ぎる光をさげざるようロールカーテンを使うなど工夫している。	共用空間(フロア)は広く、いす、ソファ、畳の間など、それぞれが寛げる場所が作られている。季節の花や作品を飾る事で、自然に会話が盛り上がるようにと、季節に応じて変えられている。共用空間から台所が見えるので、食事作りが好きなご利用者を台所へ誘ったり、本棚を購入し、雑誌や書物の充実が図られた。	中庭の大きな木を切り、圧迫感をなくすなど、ホームの真ん中にある広い中庭の活用は、引き続き検討されている。くつろぎの空間作り、居場所の選択肢を増やすための話し合いを、今後も継続していく予定である。
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室とフロア椅子以外にもソファや畳のスペース、畳ベンチを置いたり居場所の選択肢を増やし、好きな時に良い場所で過ごせるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が不安や混乱なく過ごせるよう、本人と家族と相談し、馴染みの家具や小物などを持参してもらい、以前の生活空間に近づけた居室作りに配慮している。居室は洋室と和室の2パターンがある。	馴染みの品物として、タンス、ベッド、布団、テレビ、ラジオ、農作業具、観葉植物、化粧台、手芸品、雑誌など、個別に持参頂いている。お孫さん手作りのパッチワークも飾られており、昔の仕事に関する暖簾を下げておられる方もおられ、ご本人の生活歴を大切にされている事が伝わってきた。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下、浴室、トイレには手すりがあり、浴槽内には滑り止め。畳部屋に上がる際の段差など個人の状況に応じた生活が送れるようにしている。各居室には、表札をしたり、トイレへの目印を書いておくなど混乱なく過ごせるよう工夫している。定期的に危険箇所を出し合い検討・対策を行っている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	25	適したアセスメントシートの活用が出来ておらず、現在の様式では本人の希望や思いなどを深く知る事が出来ず、今向上のケアにつながらない	センター方式を活用し一人一人のケアの質の向上を目指す	センター方式を活用し、その中から特に重要な様式を選び出し、優先的に活用して行く。書き込んだ情報を全職員が知識として習得し日々の関わりをもつ。そこからプランへとつなげていく。	12ヶ月
2	3	グループホームとはどのような施設なのか。認知症の方の理解や支援方法などを地域の方々向けに発信が出来ていない	地域の方々向けにお茶会や介護教室などを開催し、グループホームについてや、認知症の方の理解を深めていきたい	介護教室を開催し、地域の方々に足を運んでもらう。推進委員の方やご家族に協力をお願いして、行事や催しを開く時は気軽に立ち寄ってもらえるよう呼びかけてもらい、地域の理解を深めていく。	24ヶ月
3	37	夜間想定での災害訓練が最近行えていない。水害・地震時の訓練も行う必要がある	夜間想定、水害・地震想定での訓練を定期的に行う	マニュアルの見直しを行う。定期的に夜間想定での訓練。水害や地震想定での訓練を行う。	24ヶ月
4	54	くつろぎや楽しめる空間を増やす為にも、中庭の在り方についても一度考え直す必要がある	自然と足が向くような中庭づくり	改修工事(芝張り替え、ゴムチップ舗装)を行う。花壇やプランターを置く。テーブルやベンチを置き、花や緑を楽しみながら、話しやお茶を楽しめるようにする。	12ヶ月
5					ヶ月